

梅香

早いもので1月も終わり、梅の花が咲く時節を迎える。年々、暖かいと言われながら、雪の多少も気になるが、桜の蕾さえ今でも咲きそうだとか季節感到に困惑だ。

とりわけ三浦半島では名産のダイコンがマルマルと太ってしまい規格外の大きさなどで市場価格が下がり、生産農家は経費倒れだと嘆いている。西高東低の冬の季節模様は大きく崩れかけてはいるもののこれからの太平洋岸は予期せぬ冬将軍に見舞われたり、インフルエンザやコロナ肺炎の襲来など気が抜けない昨今だ。

気合いだ！

あるアスリートの父親が「気合いだ！気合いだ！」の連発で話題となり、メディアの材料として度々、取り上げられているが、自らを鼓舞するうえで声を出してやや過剰なジェスチャーをすることはとても良い方法なのかも知れない。

アスリートがマインドコントロールすることにより、成果が期待できることや実際に記録が更新出来たりするのだから、よくも悪くも自らを律する意味でも闘争心をかきたてるうえでも自らを奮い立たせることは良い方法なのである。

というのも筆者の私自身に言い聞かせたいのだが、「喜寿」を迎えた寄る年波のせいなのか、身体の活力低下と併せて、心意気の衰えを特に感じているこの頃、我ながら失望している。

ここまで記述して来るとネガティブな方向になってしまうが、誰もが迎える高齢化に心が萎む思いは「根性」や「こころね」だけではどうにもならないから、むしろ甘受することも必要だ。

そこでサミュエル・ウルマン原作の詩「青春」マッカサーの座右の銘でもあり、著名な詩文でありご存知かとも思うが、奮起するため抜粋した。

「YOUTH(青春)」 青春とは心の様相を言うのだ！優れた想像力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春という。情熱を失う時に精神はしぼむ。苦悶や狐疑や不安、恐怖、失望こそ恰も人を老いさせ、魂をも芥に帰せる。70あろうと16であらうと驚異への愛慕心、空にきらめく星辰、事物や思想に対する欽仰、剛毅な挑戦、探求心、歓喜と興味を胸中に抱き得たい。
「人は信念と共に若く 疑惑と共に老ゆる。人は自信と共に若く 恐怖と共に老ゆる。希望ある限り若く 失望と共に老い朽ちる。」 70代に記したウルマンの心意気を読み解き励みとしたい。

TOPICS

- 1、家庭用 大型浴水循環装置新設工事 東京、T邸 1/15
(1) 世田谷区、T邸 1/15 竣工 (2) 相模原市 Y邸 1/18 竣工
- 2、台風被害 屋根漏水修理工事 横須賀市 H邸 1/7 仮修理、追加工事予定
- 3、業務用 大型浴水循環濾過装置 更改工事 見積提案/工期調整 1/31